埼玉大学紀要　教育学部（教育科学Ⅰ），52（1）：55－80（2003）

# セクシャル・マイノリティに対するセクシャル・マジョリティの態度とカミング・アウトへの反応

桐原　奈津*・坂西　友秀**

## 目　的

マイノリティに関する研究の多くは、人種的な偏見や差別に焦点を当てるものが多かった。しかし、差別や偏見の対象は、人種的なマイノリティに限られたものではなく、宗教的マイノリティであったり、女性であったり、障害者や弱者や病気の人たちであったりする。日本におけるハンセン病患者に対する処遇が人権侵害であり、政府自らの手で差別と偏見を作り出してきたことは、周知の事実である。1960年代に黒人の公民権運動や女性解放を目指した「ウーマンリブ」は、それまで当然視されてきたマイノリティや女性に対する公然とした偏見や差別を厳しく問うことになった。公民権運動にみられる世界的な人権獲得と擁護の運動は、従来広く蔓延していた偏見や差別の存在を批判し、その改善と解消を焦眉の課題とするに至った（猿谷,1968）。マジョリティの子どもが通う学校に、マイノリティの子どもを受け入れさせ共学させるバッスィング、一定の比率でマイノリティの学生の入学を大学が認めるなど具体的な取り組みが展開された。こうしたさまざまな取り組みの甲斐あって、人々の間にある偏見は徐々に減少してきた。このことを示す研究報告も数多くなされている（Brown,1995）。

Brown は、Dovidi & Fazio（1992）の研究を引用して、白人アメリカ人の人種的なステレオタイプと態度が歴史的に大きく変化していることを示している。例えば、黒人アメリカ人を記述する否定的な特性語を被験者が選ぶパーセンテージを1933年、1967年、1990年の各年代間で比較し、次のような結果（%）を得ている。（黒人は）「迷信的」：84,13,3,「怠け者」：75,26,4,「無知」：38,11,5,「ばか」：22,4,3,「身体が汚い」：17,3,0,「信用できない」：12,6,4。同様に1963年、1976年、1985年の調査でも似た傾向が示されている。「夕食に黒人の友だちを連れてくることに家族が反対する」：52,26,20,「白人と黒人が混合して結婚することを禁ずる法律に賛成する」：69, 35, 28,「白人と黒人は別々の学校に行くべきである」：38,20,7。Asher & Allen（1969）とHraba & Grand（1970）の子どもの人形遊びを用いた研究でも、人種的な偏見が時代をおって減少していることが示唆されている。人々の差別的な考えは、時代の変化に伴って減少している。この主張を支持する研究が行われてきているのである。

しかし、人々の偏見は確実に弱くなっているのであろうか。「偏見の減少」に疑問を呈する研究も少なくない（例えば、Vanman,1997）。McConahay（1986）は、偏見はなくなっているのではなく、姿形を変えて現在も存在していると考えている（Brown,1995より引用）。つまり、人種主義には旧来型のものと現代型のものとが併存しているというのである。前者は、「あなたと同じ程度の収入と学歴をもつある黒人家族が隣に越してきたとしたら、あなたは“とても気にする”、“少し気にする”、“全く気にしない”、

* 港区立教育センター教育相談室
**埼玉大学教育学部学校教育（教育心理学）講座
（注）本論文は1999年度埼玉大学大学院教育学研究科学校教育専攻教育心理学分野に提出した修士論文の一部を新たに分析し、まとめたものである。

のどれに当てはまりますか」、「あなたの家族のだれかが、黒人と仲良くなったら、あなたは強く反対しますか」、等の問いで表現される偏見である。後者は、「過去数年間にわたって、黒人は経済的に不当に多くの収入を得てきた」、「合衆国においては、もはや黒人差別は問題ではない」、などの質問で代表される偏見である。偏見は形を変えて現在でも潜在的に保持されているというのである。

対象の違いによっても、偏見の減少の程度は異なることが指摘されている。マイノリティ・グループや女性に対する偏見がかった態度は、他のグループに対する態度より弱くなってきている。人種的にマイノリティ・グループの人が隣人になる場合に反対する人の割合は10%であるが、隣人がホモセクシャルの人の場合には28%、エイズの人の場合には26%であった（Brown, 1995より引用）。これらは海外の資料に依拠した結果であるが、日本においてもセクシャル・マイノリティに対する同様の反応傾向が存在すると考えられる。なぜならば、日本においては、男性役割、女性役割に対する固定的な観念が現在でも強く人々の間に共有されているからである。とりわけ、日本独特の男尊女卑の人間関係と観念を基盤においた「家」制度が、性役割に強く拘束された男性や女性の再生産に大きな影響を及ぼしているからだ。青年を対象にした研究では、男尊女卑の人間関係を色濃く反映する男性観と女性観には、伝統的な「家」意識が今でも強く関わっており、男性とくに長男に強く認められる傾向であることが明らかにされている（坂西,1999a,1999b,2000,2001）。伝統的な性役割観を強くもつことは、いわゆる「男らしさ」「女らしさ」をそれだけ意識させるから、伝統的性役割観の強い人は弱い人に比べ、セクシャル・マイノリティに対してより否定的な印象をもち、セクシャル・マイノリティによるカミング・アウト（性的指向の告白）に対してもより否定的な態度をもつと推測されるのである。強いジェンダー意識は、伝統的で固定的な性役割に当てはまらない「レズビアン」「ホモセクシャル」「バイセクシャル」「性同一性障害」[4]などのセクシャル・マイノリティを特別視させ、彼/彼女に対するステレオタイプの見方を保持させ助長させていると考えられる。

一方、最近では、性同一性障害の人が性別適合手術を受けたり、自己の生物学的な性に違和感をもつ女性スポーツ選手が、カミング・アウト[2]することによって、自認する性を社会的に認知させたりすることで、同一性を確立する例が見られる。セクシャル・マイノリティに対する理解は徐々に広がってきている。マイノリティに対する現代の偏見や差別を理解する一つの手がかりを得るために、本研究ではセクシャル・マイノリティに対する一般の人々の態度や反応をとりあげる。セクシャル・マイノリティといわれる「レズビアン」「ホモセクシャル」「バイセクシャル」「性同一性障害」の人々に対するセクシャル・マジョリティである異性愛者（ヘテロセクシャル）[3]の人々の印象と態度、及びセクシャル・マイノリティの人々からカミング・アウトされたときの対応や反応に焦点を当て、実態を明らかにすることを研究の目的とする。

同性愛に対する態度に関する研究はたくさん行われている。例えば、Brown & Amoroso（1975）は、男女大学生を対象に、同性愛に対する態度、性に対する考え（リベラルか保守的か）、及び被験者自身の性衝動について調べた。その結果、女性よりも男性の方が、また性に対する考え方がリベラルな人よりも保守的な人の方が反同性愛的な態度であることを見出している。Millham, San Miguel & Kellogg (1976) は、同性愛者を男性同性愛者と女性同性愛者とに分け、両者の同性愛者に対する態度を調べている。その結果、女性よりも男性の方が、男性同性愛者に個人的不安をより強く感じること、男性は女性同性愛者を、女性は男性同性愛者をより好むことを見いだしている。すでに行われている同性愛に対する態度研究のメタ分析によると、



女性よりも男性の方が同性愛にネガティブな態度をもっていることが明らかにされている（Morin & Garfinkel,1978 ; Whitley & Kite, 1995）。日本でも、女性よりも男性の方が同性愛の社会的容認度を低くみており、同性愛者と心理的に距離をおき、ポジティブなイメージをもっていないという結果が出ている。さらに、男性は男性の同性愛者と心理的に距離をおいている。男性は男性同性愛者に、女性は女性同性愛者に個人的不安を強く感じ、男性は男性同性愛者よりも女性同性愛者を、女性は女性同性愛者よりも男性同性愛者を好んでいた（和田,1996）。

しかし、これらの研究では、同性愛者全般に対するイメージをたずねており、実際に親しい身近な人からカミング・アウトされたときのイメージを聞いているわけではない。イメージの問い方によっては、まったく違った結果が得られることも考えられる。本研究では、同性愛者一般を想定するのではなく、日常的に接触のある身近な友人を取り上げることにした。同性の友人からカミング・アウトされたときと、異性の友人からカミング・アウトされたときの態度の違いを明らかにすることも主要な目的の一つとする。その際、回答者の性の効果の検討も行う。

異性の友人からカミング・アウトされたときと、同性の友人からカミング・アウトされたときでは、カミング・アウトした友人に対する当人の反応に違いが生じるのであろうか。同性であれ、異性であれ、性役割観が形成されている人にとっては、同性愛はステレオタイプ化された異性間の恋愛関係、愛情関係からは逸脱したものであることになる。したがって、ヘテロセクシャルな人にとっては、カミング・アウトする人が男性であろうと女性であろうと、多かれ少なかれ否定的な態度を示すことになろう。ただし、男性は女性に比べ「たくましさ」「力強さ」が強く期待される傾向があることからすれば、女性に比べ男性は同性の友人からのカミング・アウトにより強い否定的反応を示す可能性がある。

伝統的志向の強さ及び性指向の違いとマイノリティの人々に対するイメージとの関係は、次のように予測できる。伝統的性役割観の強い男子学生の方が女子学生よりも、同性の友人からカミング・アウトされたとき、否定的な反応を示すであろう。伝統的性役割観からすれば、異性間の愛情関係は無条件の前提になっているからである。また、回答者のもつ伝統的観念の違いは、男性同性愛者に対するイメージと、女性同性愛者に対するイメージにも反映し、両者の間に違いを生じさせるであろう。伝統的性役割観では、男性は女性を保護し、リードするたくましさと力強さをもつことが要求されるから、この期待からはずれる男性同性愛者（ホモセクシャル）[1]の方が女性同性愛者（レズビアン）に比べ否定的なイメージをもたれやすいだろう。同性の友人関係の受けとめ方と受容は、当事者が男性同士であるのか、女性同士であるのか、両者の性とも関係しているようだ。和田（1993）によれば、「男性友人関係は手段的であるのに対し、女性友人関係は情動的である。すなわち、女性は親友に物事について同じように感じてくれる人を求めるのに対し、男性は同じ事をするのが好きな人を親友として求めているのである」。このことから、情動的な友人関係をもつ女性同士の方が、友人関係が恋愛関係に移行したとしても、感情的な抵抗は少ないことが考えられる。しかし、本研究は、仮説を設定せず、セクシャル・マイノリティに対するセクシャルマジョリティの態度、及びカミング・アウトに対するマジョリティの反応を探索的に検討することにする。

本研究では、一般の大学生・大学院生を対象にした。調査対象者の中から実際にカミング・アウトされたことがある人を抽出するのは非常に困難である。なぜなら、性的マイノリティに属する人たちが極めて少なく、それらの少数の人々からカミング・アウトされる人となれば、

条件に該当する人はさらに少なくなることが予想される。そこで、性的マイノリティの人と親しい交流がなく、性的マイノリティである友人にカミング・アウトされた経験のない人に対しては、友人に「カミング・アウトされたらどうするか」、という仮定のもとに回答することを要請し、調査を行うことにした。

## 方　法

**調査対象**　国立のS大学、Y大学、T大学、都内の私立大学N大学、H大学、D大学、R大学等の大学生、大学院生を対象とした。個別に調査を依頼し、承諾を得られた人に質問紙を渡し、その場で記入を求めた。記入直後に回収した。その場で記入できない場合は後日回収した。有効回答数は125名であり、男子57名、女子68名であった。

**質問紙の作成**　質問紙は、次の1.～5.の質問内容で構成された。1.回答者の属性、2.性別役割観、3.ホモセクシャル、バイセクシャル、レズビアンなどに対するイメージ、4.友人からカミング・アウトされたときの態度、5.結婚観、である。1.で、学部・学科、性別[5]、年齢、出身地を聞いた。2.では、家事は女性の仕事だと思うか、など8項目にわたって、回答者の伝統的志向、性別役割観を聞いた。3.では、ホモセクシャル、バイセクシャル、レズビアン、男性異性愛者、女性異性愛者それぞれについて、「なよなよしている」、「やさしい」などの特性がどの程度あてはまると思うか、回答者にイメージをたずねた。また、回答者自身のセクシャリティを明らかにするために、「ホモセクシャル」、「バイセクシャル」、「レズビアン」のそれぞれについて知っている範囲でことばの意味を記述してもらった。4.では、回答者が、同性の友人、異性の友人それぞれからカミング・アウトされたときの態度、及び同性の友人から恋愛感情を告白された（好きだと打ち明けられた）ときの態度（驚く、気持ち悪い、等）について評定を求めた。5.では、同性愛者の法律上の婚姻の認否、現在の婚姻制度そのものの必要性について回答させた。2～5の各質問は、いずれも「まったくそう思う（非常に当てはまる）」から「まったくそう思わない（非常に当てはまらない）」の5段階で評定させた。1.～5.の質問をまとめて一冊の質問紙を作成した。

## 手続き

上記の質問紙への回答を大学生・大学院生を対象に依頼し配布した。その場で回答の承諾を得たときは、回答後すぐに回収した。また、その場での記入が困難なときには、回答用紙を渡し、記入してもらった上で後日回収した。調査期間は、1999年6月から10月であった。最終的な有効回答者数は、女子学生68名、男子学生56名、計125名であった。

## 結　果

**伝統志向測定項目の分析**　回答者の伝統的志向の強さを測定するために、性別役割観項目の項目分析を行った。各8項目と当該項目を除く他の項目合計との積率相関係数を算出し、.40に達しない項目は除外した。その結果、男女の家事に関する項目（家事は女性（男性）の仕事だと思う）2項目と男女の育児に関する項目（育児は女性（男性）の仕事だと思う）2項目の計4項目を抽出した。信頼性を検討するために4項目の内的一貫性を算出した。クロンバックの$\alpha$の値は.75であり、内的一貫性は保たれていると判断した。よってこの4項目を用いて回答者の伝統志向の強さを測定することにした。評定値が大きいほど伝統的性役割観が弱く、小さいほど強いことを示す。

**独立変数の設定**　目的で述べたように、セクシャル・マイノリティに対するイメージや態度には、回答者の伝統志向の強さが関係していると予測される。そこで前述の伝統志向測定項目を用いて、回答者を伝統志向の強い群と弱い群に分類した。尺度の評定平均は3.42、標準偏差は.74であった。レンジは1.75～5.00であった。平均値より0.5標準偏差大きい評定をしている回答者を伝統志向弱群、0.5標準偏差小さい評定をしている回答者を伝統志向強群とした。セクシャル・マイノリティに対するイメージ・態度は、回答者自身の性別と関係するとが考えられることから、回答者の性別[5]も独立変数として考慮する。以上から、本研究で設定した条件は伝統志向の強弱(2)と異性愛者である男女の性(2)であり、両者の組み合わせから4グループが構成された。男性・伝統志向強群34名、男性・伝統志向弱群14名、女性・伝統志向強群30名、女性・伝統志向弱群23名であった。なお、回答者自身の記入から自認する性指向を調べると、男性ではバイセクシャル1名、ヘテロセクシャル44名、恋愛感情を持たない人3名、女性ではバイセクシャル1名、レズビアン1名、ヘテロセクシャル48名、恋愛感情を持たない人3名であった。これらの性自認が客観的に裏づけられているわけではないことと、本研究では回答者一般の全体的な傾向をみることを主要な目的にしていることから、特定の性指向を自認する人のみを分析対象者から除外することはしなかった。

### 1　セクシャル・マイノリティのイメージ

回答者が、ホモセクシャル、バイセクシャル、レズビアンである人に対してどのようなイメージを抱いているかを明らかにするために、セクシャル・マイノリティに対する評定値を従属変数にして、性(2)×伝統志向(2)の分散分析を行った。なお、評定対象となるセクシャル・マイノリティは、ホモセクシャル、バイセクシャル、レズビアンとした（以後、性愛の対象の違いを「性指向」と呼ぶことにする）。それに加え、比較対照するために回答者と同性の異性愛者と異性の異性愛者についても評定させた。したがって、評定対象は5種類の人であり、評定対象（性指向）は被験者内要因である。以上から、5種類の評定対象に対する評定値を従属変数とした性(2)×伝統志向(2)のくり返しのある分散分析を行った。表1は性指向の違う人に対する回答者の印象評定の平均と標準偏差をまとめたものである。各特性ごとに結果を分析していくことにする。

**「なよなよしている」**　分散分析を行った結果、性指向の主効果（$F(4,388)=9.07, p<.01$）と性×性指向の交互作用（$F(4,388)=2.52, p<.05$）が有意であった。性指向の主効果についてScheffe法（以下同様の検定法を用いる）による下位検定を行った（有意水準は $p<.05$とし、以下同様に行う）。ホモセクシャル（平均：2.99）は他の何れよりも「なよなよしている」（「バイセクシャル」(3.44)，「レズビアン」(3.51)，「男異性愛者」(3.66)，「女異性愛者」(3.31) と認知される傾向が有意に強い（注：(　) 内の平均は、各変数を組み合わせた順に表記している。例えば、性×性指向では、男性・ホモセクシャル、男性・バイセクシャル、男性・レズビアン、男性・男性異性愛者、男性・女性異性愛者、女性・ホモセクシャル、女性・バイセクシャル、女性・レズビアン、女性・男性異性愛者、女性・女性異性愛者の順に記している）。また、異性愛者の女性は異性愛者の男性より「なよなよしている」と有意に強く見られていた。交互作用について同様の下位検定・多重比較を行った。男性の「ホモセクシャル」に対する評定値（2.83）は他のすべての評定値　(3.12, 3.59, 3.65, 3.28, 3.15, 3.69, 3.42, 3.68, 3.33) よりも有意に小さく、「ホモセクシャル」は「なよなよしている」と見ている。女性の「ホモセクシャル」に対する評定も類似の傾向にある。男性のバイセクシャルに対する評定は、男女の異性愛者や女性による「バイセクシャル」に対する評定より小さく、有意に強く「なよなよしている」と見ている（図1-1）。

表1－1　性指向の異なる人に対する印象評定の各項目の 平均・標準偏差（その1）

| 項目 | 性/伝統志向 | ホモセクシ | バイセクシャル | レズビアン | 男異性指向 | 女異性指向 | 人数 | 有意な効果 | 有意水準 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「なよなよしている」 | 男子・伝統志向強 | 2.79 | 3.09 | 3.32 | 3.44 | 3.15 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 1.01 | 0.75 | 0.84 | 0.66 | 0.56 | | 性×性指向 | ＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 2.86 | 3.29 | 3.86 | 3.86 | 3.43 | 14 | | |
| | | 1.17 | 1.14 | 1.29 | 0.86 | 1.02 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.13 | 3.73 | 3.5 | 3.7 | 3.27 | 30 | | |
| | | 1.04 | 0.69 | 0.9 | 0.65 | 0.74 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.17 | 3.65 | 3.35 | 3.65 | 3.39 | 23 | | |
| | | 1.03 | 0.83 | 0.83 | 0.71 | 0.84 | | | |
| 「優柔不断な」 | 男子・伝統志向強 | 3.06 | 2.86 | 3.47 | 3.24 | 3.12 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 1.13 | 0.86 | 0.86 | 0.82 | 0.69 | | 性×伝統志向 | ＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.71 | 3 | 4 | 3.29 | 3.57 | 14 | | |
| | | 0.99 | 1.18 | 1.04 | 0.99 | 0.94 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.8 | 3.33 | 3.7 | 3.37 | 3.27 | 30 | | |
| | | 1 | 0.99 | 0.84 | 0.56 | 0.69 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.7 | 3.22 | 3.61 | 3.39 | 3.13 | 23 | | |
| | | 1.02 | 1.17 | 0.84 | 0.84 | 0.81 | | | |
| 「たくましい」 | 男子・伝統志向強 | 2.94 | 3.23 | 3 | 2.71 | 3.06 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 1.07 | 0.85 | 1.02 | 0.63 | 0.74 | | | |
| | 男子・伝統志向弱 | 2.71 | 3.57 | 3.14 | 2.36 | 3.14 | 14 | | |
| | | 1.54 | 1.09 | 1.56 | 0.84 | 1.17 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.23 | 3.1 | 3.13 | 2.7 | 3.4 | 30 | | |
| | | 0.77 | 0.84 | 1.01 | 0.7 | 0.72 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 2.7 | 3.09 | 3.09 | 2.83 | 3.04 | 23 | | |
| | | 0.7 | 0.85 | 1.04 | 0.58 | 0.81 | | | |
| 「力強い」 | 男子・伝統志向強 | 3.27 | 3.29 | 3.15 | 2.53 | 3.15 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 0.93 | 0.72 | 1.02 | 0.71 | 0.78 | | 性×伝統志向 | ＋ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.14 | 3.57 | 3.5 | 2.5 | 3.43 | 14 | | |
| | | 1.46 | 1.09 | 1.4 | 0.85 | 1.16 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.4 | 3.2 | 3.23 | 2.63 | 3.37 | 30 | | |
| | | 0.81 | 0.81 | 0.94 | 0.72 | 0.67 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 2.74 | 3.13 | 2.96 | 2.83 | 3.22 | 23 | | |
| | | 0.86 | 0.76 | 0.93 | 0.58 | 0.8 | | | |
| 「決断力のある」 | 男子・伝統志向強 | 3.09 | 2.94 | 2.38 | 2.65 | 2.91 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 1.08 | 0.92 | 0.95 | 0.69 | 0.67 | | 伝統志向×性指向 | ＋ |
| | 男子・伝統志向弱 | 2.29 | 3.29 | 2.5 | 2.5 | 2.71 | 14 | 性×性指向×伝統志向 | ＋ |
| | | 1.14 | 1.2 | 1.22 | 1.09 | 1.07 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 2.97 | 3.03 | 2.93 | 2.93 | 3.2 | 30 | | |
| | | 0.01 | 0.81 | 1.01 | 0.58 | 0.55 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 2.78 | 2.96 | 2.57 | 3.04 | 2.74 | 23 | | |
| | | 1.09 | 0.93 | 0.95 | 0.77 | 0.54 | | | |
| 「親しみのある」 | 男子・伝統志向強 | 3.59 | 3.47 | 3.41 | 2.5 | 2.41 | 34 | 性 | ＋ |
| | | 0.99 | 0.83 | 1.02 | 0.79 | 0.66 | | 性指向 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.64 | 3.93 | 3.57 | 2.21 | 2.14 | 14 | 性×性指向 | ＊＊ |
| | | 1.22 | 1.14 | 1.28 | 0.97 | 0.95 | | 性×性指向×伝統志向 | ＊＊ |
| | 女子・伝統志向強 | 3.3 | 3.2 | 3.4 | 2.43 | 2.4 | 30 | | |
| | | 0.99 | 0.71 | 0.81 | 0.73 | 0.81 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3 | 3 | 3.09 | 2.78 | 2.61 | 23 | | |
| | | 0.95 | 0.95 | 0.9 | 0.52 | 0.72 | | | |

（注）＊＊は P<.01,　＊はP<.05, ＋はP<.10 を表す。上段の数字は平均、下段の数字は標準偏差である。



表1－2　性指向の異なる人に対する印象評定の各項目の 平均・標準偏差（その2）

| 項目 | 性/伝統志向 | ホモセクシ | バイセクシャル | レズビアン | 男異性指向 | 女異性指向 | 人数 | 有意な効果 | 有意水準 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「優しい」 | 男子・伝統志向強 | 2.71 | 2.94 | 2.79 | 2.68 | 2.41 | 34 | 性指向 | ＊ |
| | | 0.84 | 0.85 | 0.81 | 0.68 | 0.74 | | 性×性指向 | ＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 2.58 | 2.71 | 2.64 | 2.5 | 2.29 | 14 | | |
| | | 1.22 | 0.91 | 1.08 | 0.94 | 1.14 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 2.53 | 2.83 | 2.93 | 2.57 | 2.7 | 30 | | |
| | | 0.82 | 0.75 | 0.78 | 0.63 | 0.6 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 2.35 | 2.74 | 2.7 | 2.87 | 2.91 | 23 | | |
| | | 1.11 | 0.69 | 0.85 | 0.46 | 0.6 | | | |
| 「頼りがいのある」 | 男子・伝統志向強 | 3.41 | 3.24 | 3.03 | 2.62 | 2.91 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 0.7 | 0.65 | 0.8 | 0.74 | 0.51 | | 性×性指向 | ＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.14 | 3.64 | 3.14 | 2.29 | 3 | 14 | 性×性指向×伝統志向 | ＋ |
| | | 1.23 | 0.84 | 1.03 | 0.83 | 1.11 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.3 | 3.07 | 3.4 | 2.57 | 3.17 | 30 | | |
| | | 0.84 | 0.64 | 0.77 | 0.68 | 0.59 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.09 | 3.09 | 3.23 | 2.96 | 2.91 | 23 | | |
| | | 0.73 | 1.04 | 0.95 | 0.64 | 0.51 | | | |
| 「暖かい」 | 男子・伝統志向強 | 2.97 | 3.26 | 3.03 | 2.76 | 2.53 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 0.76 | 0.71 | 0.76 | 0.65 | 0.71 | | 性×性指向 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3 | 3.07 | 3.36 | 2.57 | 2.5 | 14 | | |
| | | 0.96 | 1 | 0.93 | 0.85 | 1.09 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 2.77 | 3.07 | 2.9 | 2.73 | 2.7 | 30 | | |
| | | 0.9 | 0.69 | 0.92 | 0.69 | 0.7 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 2.56 | 2.96 | 2.61 | 3 | 2.78 | 23 | | |
| | | 0.79 | 0.88 | 0.72 | 0.52 | 0.6 | | | |
| 「気弱な」 | 男子・伝統志向強 | 3.21 | 2.91 | 3.18 | 3.26 | 3.15 | 34 | 性×伝統志向 | ＊ |
| | | 0.88 | 0.83 | 0.94 | 0.67 | 0.66 | | | |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.29 | 3.07 | 3.57 | 3.43 | 3.5 | 14 | | |
| | | 1.14 | 1.27 | 1.02 | 0.85 | 1.02 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.33 | 3.67 | 3.47 | 3.5 | 3.3 | 30 | | |
| | | 0.92 | 0.76 | 0.82 | 0.63 | 0.53 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.43 | 3.13 | 3.13 | 3.35 | 3.26 | 23 | | |
| | | 0.79 | 0.69 | 0.97 | 0.78 | 0.62 | | | |
| 「繊細な」 | 男子・伝統志向強 | 2.56 | 2.79 | 2.76 | 3.03 | 2.59 | 34 | 伝統志向 | ＋ |
| | | 0.96 | 0.91 | 0.89 | 0.71 | 0.66 | | 性指向 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 2.57 | 2.64 | 2.64 | 3.21 | 2.57 | 14 | 性×性指向 | ＊ |
| | | 1.22 | 1.08 | 1.08 | 0.97 | 1.02 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 2.53 | 3.27 | 2.9 | 3.23 | 3 | 30 | | |
| | | 0.97 | 0.94 | 0.99 | 0.57 | 0.59 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 2.13 | 2.56 | 2.3 | 3.17 | 3 | 23 | | |
| | | 0.69 | 0.84 | 0.7 | 0.72 | 0.74 | | | |

（注）＊＊は P<.01,　＊はP<.05, ＋はP<.10 を表す。上段の数字は平均、下段の数字は標準偏差である。

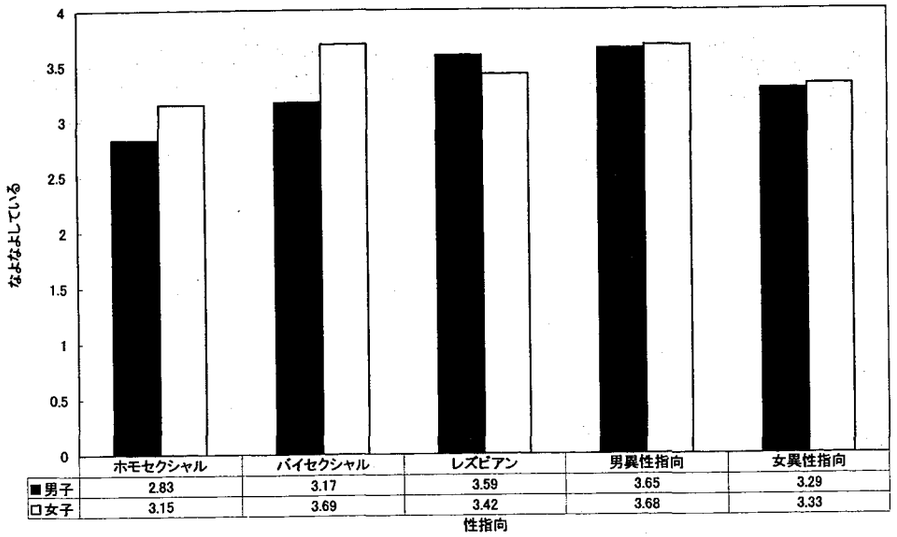



図1-1　セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「なよなよしている」

**「優柔不断な」**　性指向の主効果（F（4,388）=6.95, p<.01）と性×伝統志向の交互作用（F（1,97）=5.01）, p<.05）が有意であった。性指向の主効果の下位検定を行った。レズビアンに対する評定値（3.69）は、「ホモセクシャル」（3.57）を除く他のすべて（3.10,3.32,3.27）より大きく、「優柔不断」と見られる傾向は有意に弱い。それに対して「バイセクシャル」（3.10）は評定値が5群中もっとも小さく、「ホモセクシャル」（3.56）と「レズビアン」（3.69）よりも有意に強く「優柔不断な」人と見られている。交互作用の下位検定を行うと、伝統志向の強い男性（3.15）は、伝統志向の強い女性（3.49）より、評定対象を優柔不断だとみる傾向が強い（図1-2）。

**「たくましい」**　性指向の主効果（F（4,388）=6.82, p<.01）が有意であった。下位検定を行うと、男性異性愛者（2.64）は、「ホモセクシャル」（2.90）以外のだれよりも（3.25, 3.09, 3.16）「たくましい」と見られている。「バイセクシャル」（3.25）は「ホモセクシャル」（2.90）と「男性異性愛者」（2.65）よりたくましくないと認知されている。

**「力強い」**　性指向の主効果（F(4,388)=10.73, p<.01）が有意であった。下位検定を行うと、「男性異性愛者」（2.62）は、他のどの性指向の人（3.14, 3.30, 3.21, 3.29）よりも「力強い」と見なされている。

**「決断力のある」**　性指向の主効果（F (4,388) =4.17, p<.01）が有意であった。下位検定を行うと、「レズビアン」（2.60）は他のどの性指向の人（2.78, 3.05, 2.78, 2.89）よりも決断力があると見なされている。それに対して「バイセクシャル」（3.05）は、「女性異性愛者」（2.89）以外のどの性指向の人よりも決断力がないと見られている。「ホモセクシャル」（2.78）は「バイセクシャル」（3.05）より決断力があるが、「レズビアン」（2.60）より決断力がない、と見なされている。

**「親しみやすい」**　性指向の主効果（F（4,388）=34.24, p<.01）、性×性指向（F（4,388）=4.86, p<.01）、性×伝統志向×性指向（F（4,388）=2.74, p<.05）の交互作用が有意であった。性指向の主効果について下位検定を行うと、男女の異性愛者（2.48, 2.39）は共に「ホモセクシャル」（3.38）「バイセクシャル」（3.40）「レズビアン」（3.37）の人たちより有意に親しみやすいと見られている（図1-3）。性×性指向の交互作用の下位検定を行った。男性は、「ホモセクシャル」（3.62）「バイセクシャル」（3.70）と「レズビアン」（3.49）の間に親しみやすさに違いはないと感じている。前者2者は、評定値が何れも3.6を越えているし、「レズビアン」も3.5であり、「親しみやすい」とは感じていない。さらに、女性の「ホモセクシャル」（3.15）「バイセクシャル」（3.10）「レズビアン」（3.24）に対する評定値は、何れも男性の値を有意に下回っており、男性より女性の方が三者に対して「親しみやすい」と感じる傾向が強い。男女の回答者は共に、男性異性愛者（2.35,2.60）と女性異性愛者（2.28,2.50）の方が、「ホモセクシャル」（3.62, 3.15）「バイセクシャル」（3.70, 3.10）「レズビアン」（3.49, 3.24）のセクシャル・マイノリティより有意に「親しみやすい」と感じている（図1-4-1）。

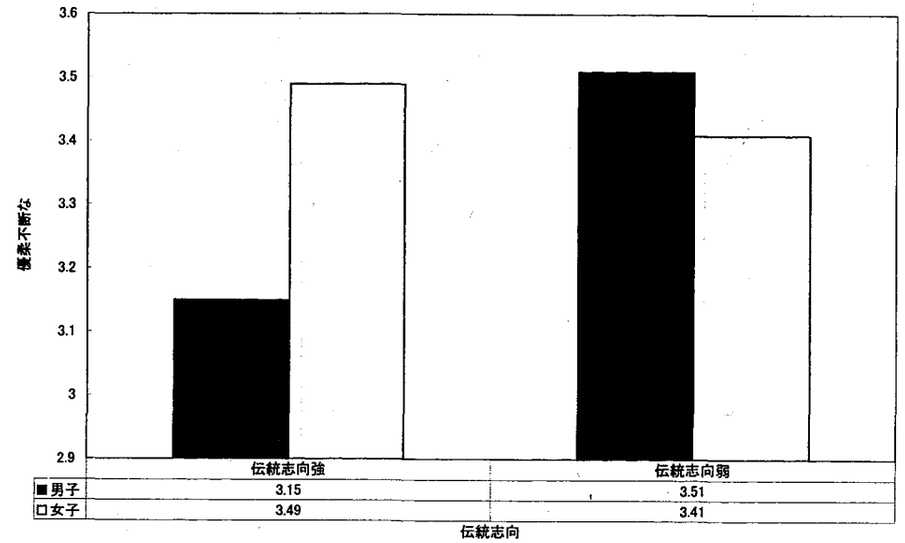



図1-2　セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「優柔不断な」

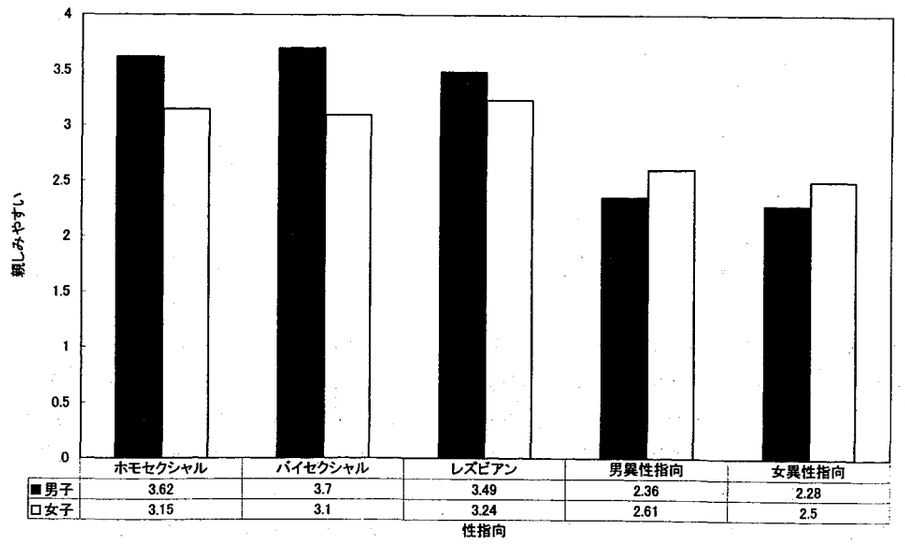



図1-3　セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「親しみやすい」（性×性指向）

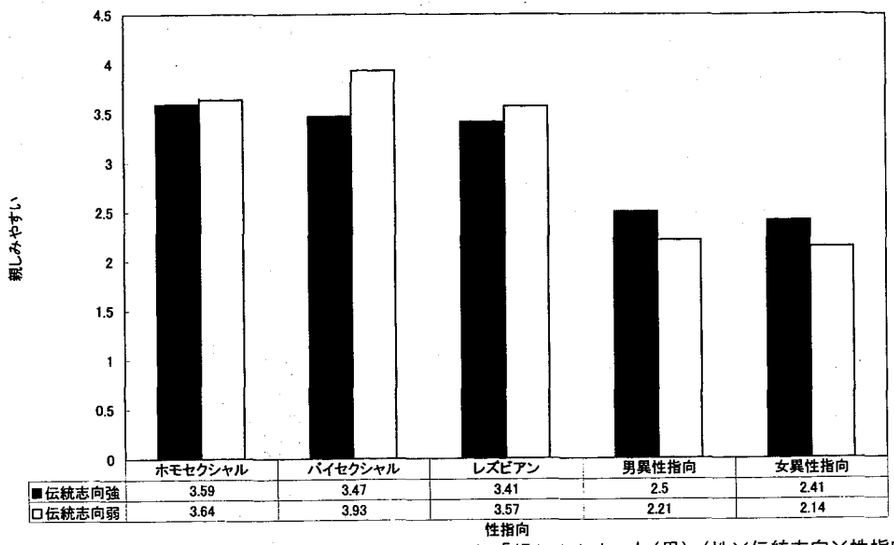



図1-4-1　セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「親しみやすい」（男）（性×伝統志向×性指向）

性×伝統志向×性指向の交互作用の下位検定を行った。伝統志向の強い男性の「ホモセクシャル」に対する評定（3.59）は、伝統志向の強い女性の「女性異性愛者」に対する評定値（2.40）より有意に小さく、「親しみやすい」とは見ていない。伝統志向の強い男性の「女性異性愛者」対する評定値（2.41）は、伝統志向の弱い男性の「バイセクシャル」に対する評定値（3.93）より有意に小さく、「バイセクシャル」は親しみやすい対象ではない。伝統志向の弱い男性の「バイセクシャル」に対する評定値（3.93）は、伝統志向の強い男性の「女性異性愛者」（2.41）、伝統志向の弱い男性の「女性異性愛者」（2.14）、伝統志向の強い女性の「男性異性愛者」（2.40）の評定値より大きく、「親しみやすい」と感じてる（図1-4-2）。

**「やさしい」**　性指向の主効果（F（4,388）=2.48, p<.05）と性×性指向の交互作用（4,388）=2.73, p<.05）が有意であった。性指向の主効果の下位検定を行うと、有意差は認められなかった。参考としてLSD検定を行った。「ホモセクシャル」（2.54）は、「バイセクシャル」（2.81）「レズビアン」（2.77）よりも評定値が有意に小さく、やさしいと認知されている。女性異性愛者（2.58）は、「バイセクシャル」（2.81）「レズビアン」（2.77）よりもやさしいと認知される傾向が有意に強かった。交互作用の下位検定を行った。Scheffe法では有意差は認められなかった。参考として、LSD検定を行った。男性は、女性異性愛者（2.35）をやさしいとみる傾向が強く、女性の「ホモセクシャル」に対する評定（2.44）との間で差がなかった以外は、他の全ての条件間（2.64, 2.83, 2.72, 2.59, 2.44, 2.79, 2.81, 2.72, 2.81）で有意差があった。「ホモセクシャル」に対する女性の評定（2.44）は、女性異性愛者に対する男性の評定（2.63）との間で有意差がなかった以外は、他の全ての条件（2.83, 2.72, 2.44,2.79, 2.81, 2.72, 2.81）との間で有意差が認められた。女性は、「ホモセクシャル」をやさしいとみる傾向が強いことを示している（図1-5）。

**「頼りがいのある」**　性指向の主効果（F（4,388）=12.64, p<.01）と性×性指向の交互作用（F（4,388）=3.02, p<.05）が有意であった。主効果の下位検定を行うと、男性異性愛者（2.61）の評定値がもっとも小さく、他のどの性指向の人よりも頼りがいがあると有意に強く



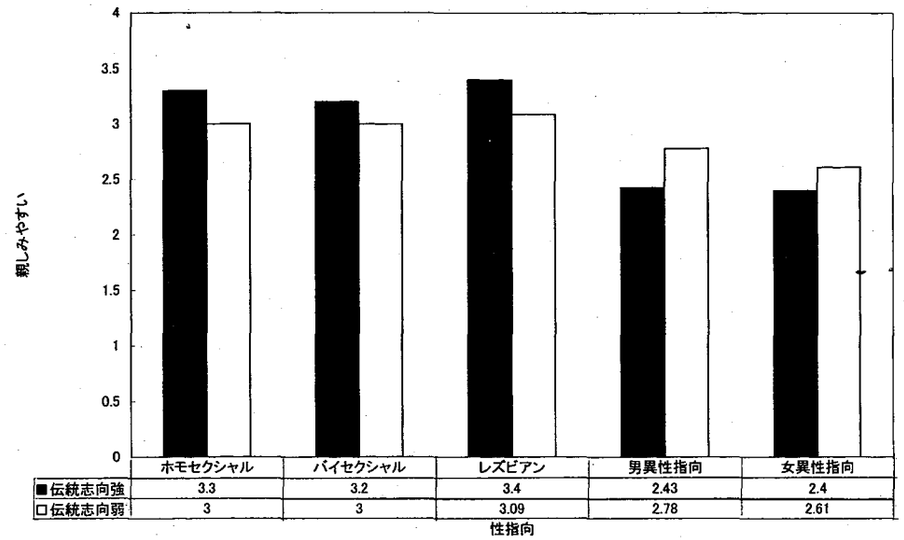



図1-4-2　セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「親しみやすい」（女）（性×伝統志向×性指向）

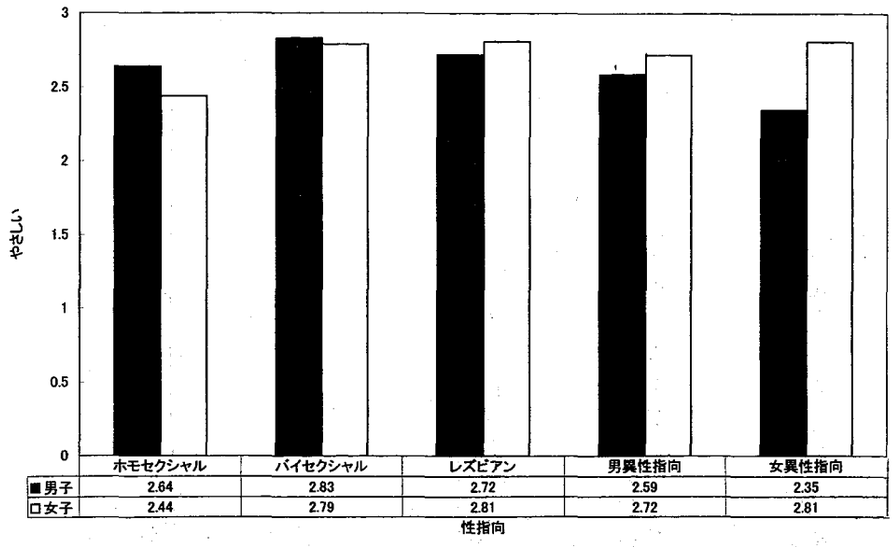


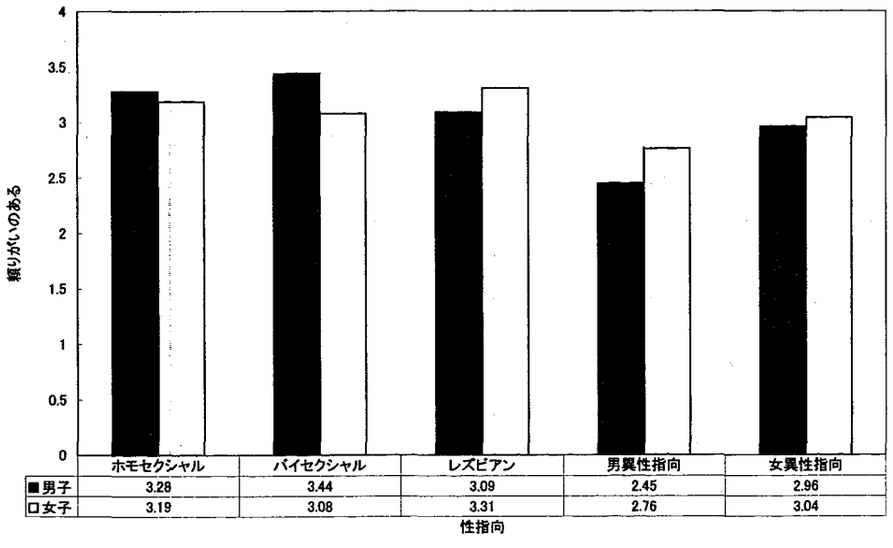

図1-5　セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「やさしい」（性×性指向）

認知されていた。交互作用の下位検定を行った。男性の男性異性愛者に対する評定値はもっとも小さく（2.45）、男性の女性異性愛者に対する評定（2.96）と女性の男性異性愛者に対する評定（2.76）を除いて、他の条件の評定値との間に有意差が認められた。男性は男性異性愛者を頼りがいがあると強く見ている。女性も男性異性愛者に対する評定は小さい（2.76）ものの、有意差は男性の「バイセクシャル」に対する評定値（3.44）との間に認められるだけである。男性は男性異性愛者を頼りがいがあると見ているが、女性は男性ほど男性異性愛者を頼りがいがあるとは見ていない（図1-6）。

**「暖かい」** 性指向の主効果（F(4,388)=5.84, p<.01）と性×性指向の交互作用（F(4,388)=4.08, p<.01）が有意であった。主効果の下位検定を行うと、女性の異性愛者に対する評定値（2.63）が一番小さく、「バイセクシャル」（3.09）「レズビアン」（2.97）との間に有意な差が認められた。女性異性愛者は、「バイセクシャル」「レズビアン」よりも暖かいと見られる傾向が有意に強い（図1-7）。

**「気が弱い」** 性×伝統志向の交互作用（F（1,97）=4.15, p<.04）が有意であった。下位検定を行うと有意差は認められなかった。参考のためにＬＳＤ法による下位検定を行った。伝統志向の強い男性（3.14）と伝統志向の強い女性（3.45）の間に有意な差が認められ、伝統志向の強い男性は、伝統志向の強い女性より評定対象を「気が弱い」とみる傾向が強い（図1-8）。

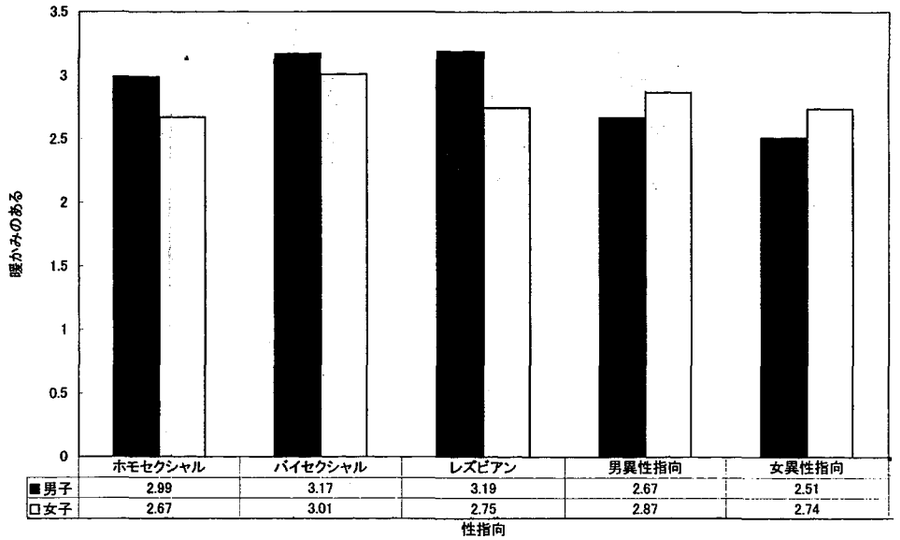
**「繊細な」** 性指向の主効果（F(4,388)=10.16, p<.01）と性×性指向の交互作用（F(4,388)=2.41, p<.05）が有意であった。主効果の下位検定を行うと、男性異性愛者（3.16）は他のすべての条件（2.45,2.82,2.65,2.79）との間に有意差が認められ、もっとも繊細ではないと見られている。それに対して、「ホモセクシャル」（2.45）は、「バイセクシャル」（2.82）「男性異性愛者」（3.16）「女性異性愛者」（2.79）に比べ評定値が有意に小さく、繊細であると見られている。交互作用の検定を行うと、女性の「ホモセクシャル」（2.33）に対する評定と女性の男性異性愛者（3.20）及び女性異性愛者（3.00）に対する評定との間に有意差が認められ、女性は異性愛者に比べ「ホモセクシャル」をより繊細であると見ている（図1-9）。




| | ホモセクシャル | バイセクシャル | レズビアン | 男異性指向 | 女異性指向 |
|---|---|---|---|---|---|
| ■男子 | 3.28 | 3.44 | 3.09 | 2.45 | 2.96 |
| □女子 | 3.19 | 3.08 | 3.31 | 2.76 | 3.04 |

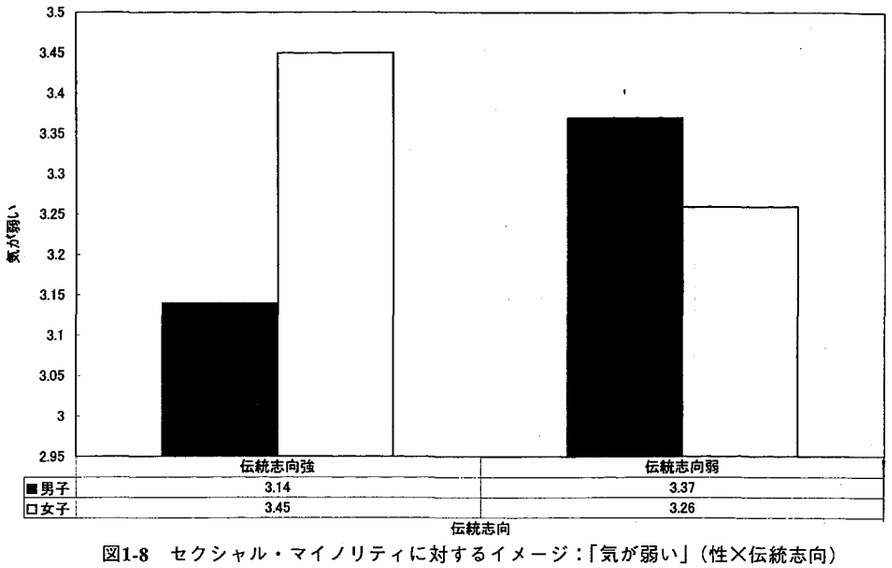
図1-6 セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「頼りがいのある」（性×性指向）






| | ホモセクシャル | バイセクシャル | レズビアン | 男異性指向 | 女異性指向 |
|---|---|---|---|---|---|
| ■男子 | 2.99 | 3.17 | 3.19 | 2.67 | 2.51 |
| □女子 | 2.67 | 3.01 | 2.75 | 2.87 | 2.74 |

図1-7 セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「暖かい」（性×性指向）




| | 伝統志向強 | 伝統志向弱 |
|---|---|---|
| ■男子 | 3.14 | 3.37 |
| □女子 | 3.45 | 3.26 |

図1-8 セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「気が弱い」（性×伝統志向）

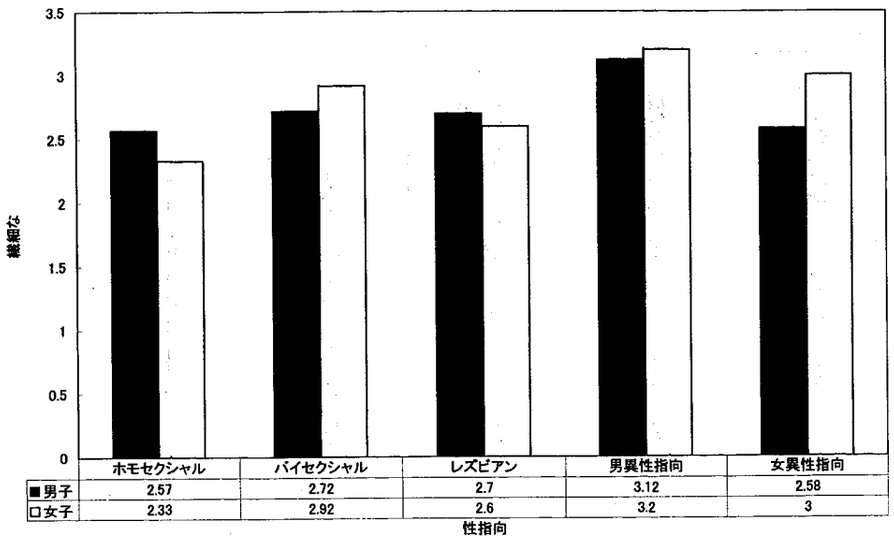



図1-9　セクシャル・マイノリティに対するイメージ：「繊細な」（性×性指向）

## 2　セクシャル・マイノリティからのカミング・アウトに対する反応

回答者が、「同性の友人からカミング・アウトされたとき」、「異性の友人からカミング・アウトされたとき」、「同性の友人から恋愛感情を告白された（好きだと打ち明けられた）とき」に、それぞれどのような反応を示すかを明らかにするために、同性及び異性からの同性愛者であることのカミング・アウト（告白）と同性の友人からの恋愛感情の告白を従属変数として、性(2)×伝統志向(2)の分散分析を行う。回答者の性別と伝統志向は被験者間要因であり、「同性の友人からのカミング・アウト」、「異性の友人からのカミング・アウト」、「同性の友人からの告白（好きだと言われること）」は繰り返しのある被験者内要因である（以下「告白内容」と呼ぶ）。表2は、性別、伝統志向別、告白内容別に平均と標準偏差をまとめたものである。なお以下、下位検定はScheffe法を用いて行い、有意水準は$p<.05$として行った。

**「全く理解できない」**　上記の分散分析を行った。告白内容の主効果（$F(2,194)=25.59$, $p<.01$）と性×告白内容の交互作用（$F(2,194)=.54$, $p<.05$）が有意であった。主効果の下位検定を行うと、同性の友人による恋愛感情の告白についての評定（2.90）が、同性（3.43）と異性（3.46）のカミング・アウトについての評定より有意に小さく、同性の友人の愛の告白は理解できないと考える傾向が有意に強い（図2-1）。

**「治療すべき病気」**　性の主効果（$F(1,97)=8.66$, $p<.05$）、告白内容の主効果（$F(2,194)=27.85$, $p<.01$）、性×告白内容の交互作用（$F(2,194)=7.10$, $p<.01$）が有意であった。性の主効果は男性（3.82）の方が女性（4.40）よりもカミング・アウトや愛の告白は「治療すべき病気」であるとみる傾向が強いことを示している。告白内容の主効果の下位検定を行うと、同性の友人からの愛の告白を受ける男性の評定値（3.29）は一番小さく、他のすべての条件の評定値（4.10, 4.08, 4.49, 4.48, 4.22）との間で有意差が認められた。男性は、愛の告白をする同性の友人は病気であり治療すべきだとみる傾向が強い。また、女性も、同性（4.49）と異性（4.49）の友人のカミング・アウトよりも、同性の友人の愛の告白の方が「治療すべき病気」とみる傾向が強い。しかし、評定値は4以上であり、否定



表2-1　同性・異性の友人の「同性愛者」告白と同性友人の「愛の告白」の各項目の平均・標準偏差（その1）

| 項目 | 性/伝統志向 | 同性の友人同性愛者告白 | 異性の友人同性愛者告白 | 同性の友人「愛の告白」 | 人数 | 有意な効果 | 有意水準 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「理解できない」 | 男子・伝統志向強 | 2.94 | 3.12 | 2.12 | 34 | 伝統志向 | ＋ |
| | | 1.2 | 1.23 | 1.2 | | 同性・異性 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.5 | 3.71 | 3.07 | 14 | 性×同性・異性 | ＊＊ |
| | | 1.61 | 1.59 | 1.59 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.6 | 3.5 | 3.17 | 30 | | |
| | | 1 | 1.07 | 1.05 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.7 | 3.52 | 3.26 | 23 | | |
| | | 1.02 | 1.04 | 1.1 | | | |
| 「治療すべき病気」 | 男子・伝統志向強 | 3.76 | 3.79 | 2.94 | 34 | 性 | ＊＊ |
| | | 1.07 | 1.04 | 1.39 | | 同性・異性 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 4.43 | 4.36 | 3.64 | 14 | 性×伝統志向 | ＋ |
| | | 0.94 | 1.01 | 1.6 | | 性×同性・異性 | ＊＊ |
| | 女子・伝統志向強 | 4.5 | 4.53 | 4.23 | 30 | | |
| | | 0.68 | 0.68 | 0.86 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 4.47 | 4.43 | 4.22 | 23 | | |
| | | 0.95 | 0.99 | 1.09 | | | |
| 「驚く」 | 男子・伝統志向強 | 1.5 | 1.59 | 1.12 | 34 | 同性・異性 | ＊＊ |
| | | 0.86 | 0.74 | 0.48 | | | |
| | 男子・伝統志向弱 | 1.21 | 1.43 | 1.14 | 14 | | |
| | | 0.58 | 0.94 | 0.36 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 1.6 | 1.6 | 1.07 | 30 | | |
| | | 0.86 | 0.81 | 0.25 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 1.52 | 1.35 | 1.04 | 23 | | |
| | | 0.94 | 0.57 | 0.21 | | | |
| 「気持ち悪い」 | 男子・伝統志向強 | 2.79 | 3.41 | 2.09 | 34 | 性 | ＊＊ |
| | | 1.34 | 1.16 | 1.06 | | 同性・異性 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.07 | 3.71 | 2.56 | 14 | 性×同性・異性 | ＊＊ |
| | | 1.64 | 1.33 | 1.39 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.83 | 3.67 | 3 | 30 | | |
| | | 1.09 | 1.18 | 1.08 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.74 | 3.48 | 3 | 23 | | |
| | | 1.18 | 1.08 | 1.24 | | | |
| 「話を聞く」 | 男子・伝統志向強 | 2.27 | 1.94 | 2.74 | 34 | 性指向 | ＊＊ |
| | | 1.33 | 1.13 | 1.48 | | 伝統志向 | ＋ |
| | 男子・伝統志向弱 | 1.86 | 1.57 | 1.79 | 14 | 性×伝統志向 | ＋ |
| | | 1.1 | 0.94 | 1.12 | | 性×同性・異性 | ＋ |
| | 女子・伝統志向強 | 1.4 | 1.43 | 1.43 | 30 | | |
| | | 0.67 | 0.63 | 0.57 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 1.39 | 1.48 | 1.48 | 23 | | |
| | | 0.89 | 0.95 | 0.66 | | | |

（注）＊＊はP＜.01，＊はP＜.05，＋はp＜.10を表す。上段の数字は平均、下段の数字は標準偏差である。

表2-2　同性・異性の友人の「同性愛者」告白と同性友人の「愛の告白」の各項目の平均・標準偏差（その2）

| 項目 | 性/伝統志向 | 同性の友人同性愛者告白 | 異性の友人同性愛者告白 | 同性の友人「愛の告白」 | 人数 | 有意な効果 | 有意水準 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「つき合いやめる」 | 男子・伝統志向強 | 3.74 | 4.09 | 2.68 | 34 | 性 | ＊＊ |
| | | 1.09 | 0.87 | 1.25 | | 同性・異性 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.93 | 4.5 | 3.07 | 14 | 性×同性・異性 | ＊＊ |
| | | 1.21 | 0.85 | 1.07 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 4.6 | 4.33 | 3.63 | 30 | | |
| | | 0.67 | 0.96 | 1.07 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 4.48 | 4.52 | 3.61 | 23 | | |
| | | 0.9 | 0.67 | 0.78 | | | |
| 「より親密になる」 | 男子・伝統志向強 | 3.5 | 3.06 | 4.03 | 34 | 性 | ＋ |
| | | 0.96 | 1.01 | 0.97 | | 同性・異性 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 4.43 | 2.86 | 3.79 | 14 | | |
| | | 0.76 | 0.77 | 0.89 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.17 | 2.83 | 3.57 | 30 | | |
| | | 0.79 | 1.01 | 0.68 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.09 | 2.96 | 3.3 | 23 | | |
| | | 0.73 | 0.77 | 1.06 | | | |
| 「うち明けに感謝」 | 男子・伝統志向強 | 2.91 | 2.41 | 3.32 | 34 | 性 | ＊ |
| | | 1.36 | 0.92 | 1.45 | | 伝統志向 | ＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 2.29 | 2.07 | 2.64 | 14 | 同性・異性 | ＊ |
| | | 1.27 | 1.14 | 1.5 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | 2.2 | 2.27 | 2.53 | 30 | | |
| | | 0.84 | 0.94 | 0.97 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 1.96 | 1.74 | 2.22 | 23 | | |
| | | 1.02 | 0.81 | 1.09 | | | |
| 「襲われる不安」 | 男子・伝統志向強 | 3 | | 2.12 | 34 | 性 | ＊ |
| | | 1.15 | | 1.39 | | 同性・異性 | ＊＊ |
| | 男子・伝統志向弱 | 3.07 | | 2.79 | 14 | 性×伝統志向× | ＊ |
| | | 1.38 | | 1.58 | | 同性・異性 | |
| | 女子・伝統志向強 | 3.63 | | 3.17 | 30 | | |
| | | 1.1 | | 1.15 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | 3.52 | | 2.78 | 23 | | |
| | | 1.04 | | 1.13 | | | |
| 「好かれて嬉しい」 | 男子・伝統志向強 | | | 3.36 | 34 | 性 | ＊＊ |
| | | | | 1.41 | | | |
| | 男子・伝統志向弱 | | | 2.86 | 14 | | |
| | | | | 1.51 | | | |
| | 女子・伝統志向強 | | | 2.3 | 30 | | |
| | | | | 0.99 | | | |
| | 女子・伝統志向弱 | | | 2.2 | 23 | | |
| | | | | 1.13 | | | |

（注）＊＊はP＜.01，＊はP＜.05，＋はp＜.10を表す。上段の数字は平均、下段の数字は標準偏差である。



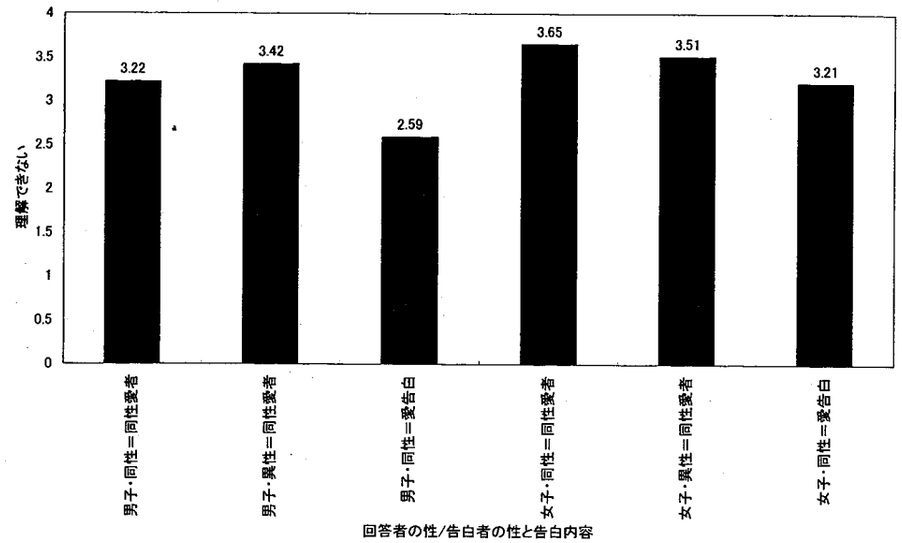



図2-1　「セクシャル・マイノリティからのカミングアウトに対する反応」:「全く理解できない」

的傾向にある（図2-2）。

**「驚く」**　告白内容の主効果(F(2,194)=18.58, p<.01）が有意であった。主効果の下位検定を行うと、同性の友人からの愛の告白（1.09）は、同性（1.46）と異性（1.49）の友人のカミング・アウトより驚きが大きいと評定している。

**「き持ち悪い」**　性の主効果（F（1,97）=5.99, p<.05)、告白内容の主効果（F（2,194）=46.13, p<.01)、性×告白内容の交互作用（F（2,194）=9.94, p<.01）が有意であった。性の主効果は、男性（2.91）の方が女性よりもカミング・アウトや同性からの愛の告白を気持ち悪いと感じる傾向が有意に強いことを示している。告白内容の主効果の下位検定を行うと、同性（3.35）や異性（3.57）の友人のカミング・アウトよりも、同性の友人の愛の告白（2.61）の方が気持ちが悪いと受けとめられている（図2-3)。

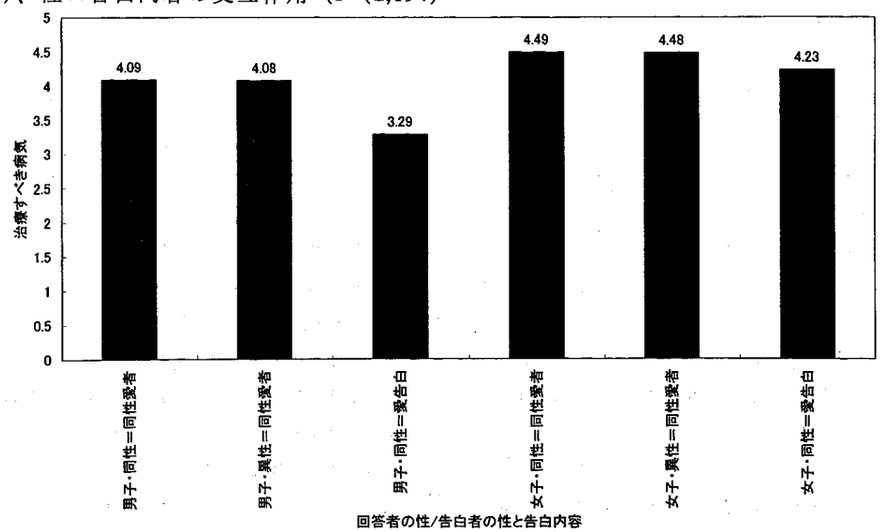



図2-2　「セクシャル・マイノリティからのカミングアウトに対する反応」:「治療すべき病気」

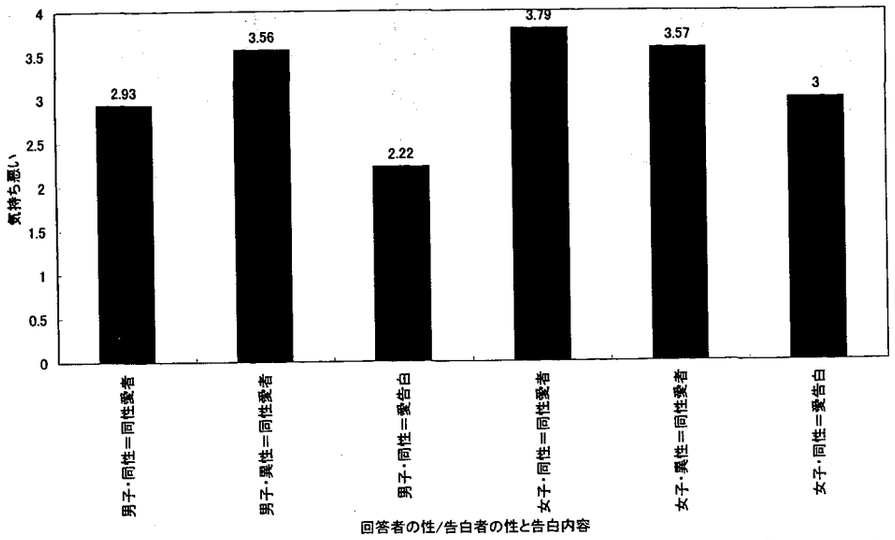



図2-3　「セクシャル・マイノリティからのカミングアウトに対する反応」:「きもち悪い」

**「ともかく話を聞く」**　性の主効果（F (1,97) =11.66, p<.01）が有意であった。男性（2.03）よりも女性（1.44）の方が、ともかくカミング・アウトする友人、告白する友人の話を聞く傾向が有意に強い。

**「つきあいをやめる」**　性の主効果（F (1,97) =10.61, p<.01）、告白内容の主効果（F (2,194) =3.25, p<.01）、性×告白内容の交互作用（F (2,194) =5.20）, p<.01）が有意であった。男性（3.67）の方が女性（4.20）よりも友達としてのつきあいをやめると考える傾向が有意に強い。告白内容の効果について下位検定を行うと、同性の友人の愛の告白（3.25）に対する方が、同性（4.19）や異性（4.36）の友人のカミング・アウトに対するよりも、友人としてのつきあいをやめると回答する傾向が有意に強い。交互作用の下位検定を行うと、同性の友人から愛の告白をされる男性（2.87）は、他のどの条件（3.83, 4.29, 4.54, 4.43, 3.62）よりも友人としてのつき合いをやめると回答する傾向が有意に強い。同性の友人からカミング・アウトされた男性（3.83）は、同性の友人から愛を告白された女性（3.62）を除く他の条件すべて（4.29, 2.87, 4.54, 4.43）との間で有意な差があり、つき合いをやめると考える傾向が強い。同様の傾向は、同性の友人から愛の告白を受けた女性の場合にも当てはまる（図2-4）。

**「より親密になる」**　告白内容の主効果（F (2,194) =26.86, p<.01）が有意であった。下位検定を行うと、異性の友人からカミング・アウトされた人（2.93）は、同性の友人からカミング・アウトされる場合（3.30）や同性の友人から愛を告白される場合（3.67）よりも、より親密な関係になると回答している。それに対して、同性の友人から愛を告白された場合は、他の条件に比べ親密度は弱く評定されている。

**「うち明けてくれて感謝」**　性の主効果（F (1,97) =5.44, p<.05）、伝統的志向の主効果（F (1,97) =5.44, p<.05）、告白内容の主効果（F (2,194) =12.20, p<.01）が有意であった。女性（2.15）の方が男性（2.61）よりも、カミング・アウトしたり告白したりすることに感謝する傾向が有意に強い。伝統志向の強い人（2.61）は弱い人（2.15）に比べカミング・アウトや告白する人に対する感謝の気持ちは有意に弱い。これら2つの主効果は、評定平均が2.5前後であることから、肯定的な傾向を示している。告白内容の主効果の下位検定を行うと、同性の友人から愛の告白（2.68）を受ける場合の方が、同性（2.34）と異性（2.12）の友人からカミング・アウトされる場合より、うち明けてくれたことに対する感謝は有意に弱い。

**「襲われるのではと不安」**　性の主効果（F (1,97) =5.15, p<.05）、告白内容の主効果（F (1,97) =31.30, p<.01）、性×伝統志向×告白内容の交互作用が有意であった。男性の方が女性よりもカミング・アウトや愛の告白に対して襲われる危険性を強く感じている。異性の友人からのカミング・アウト（3.31）よりも、同性の友人の愛の告白の方が、襲われる不安を有意に強くしている。交互作用について下位検定を行った。同性の友人からカミング・アウトされた伝統的志向の強い男性（2.12）は、他の何れの条件（3.00, 3.07, 2.79, 3.63, 3.17, 3.52, 2.78）よりも有意に強く襲われる不安を感じている。同性の友人からカミング・アウトされた伝統志向の強い女性は、同性の友人からカミング・アウトされた伝統志向の弱い女性以外の他のほとんどの条件　(3.00, 2.12, 3.07, 2,79, 3.17, 2.79）の人よりも襲われる不安は弱くなっている（図2-5）。

**「好かれて嬉しい」**　「同性の友人からのカミング・アウト」と「同性の友人からの愛の告白」についてうれしさの評定得点を従属変数（被験者内要因）として、性×伝統志向の分散分析を行った。性の主効果（F (1,97) =10.31, p<.01）が有意であった。女性（2.26）の方が男性（3.11）より同性の友人からカミング・アウトや愛の告白を受けることを肯定的にとらえ、嬉しいと評定する傾向が有意に強い。

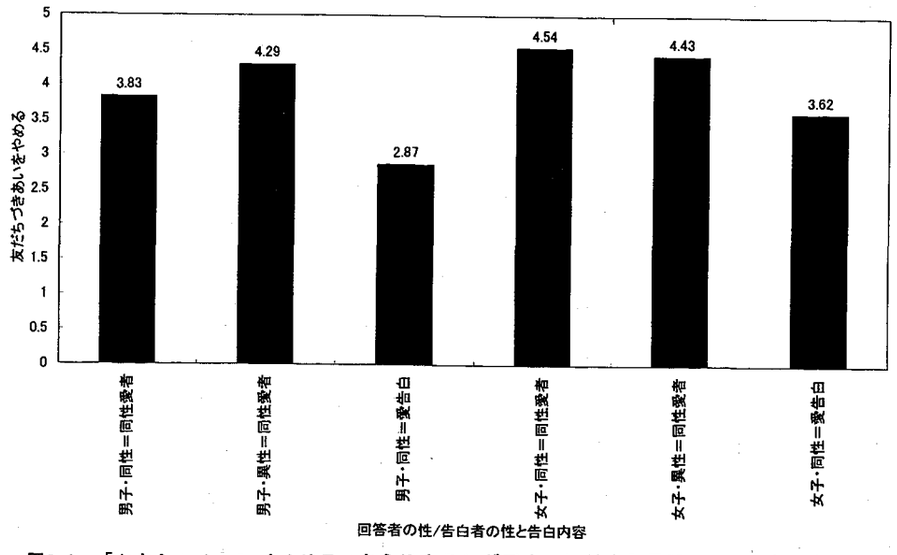



図2-4　「セクシャル・マイノリティからのカミングアウトに対する反応」:「つきあいをやめる」

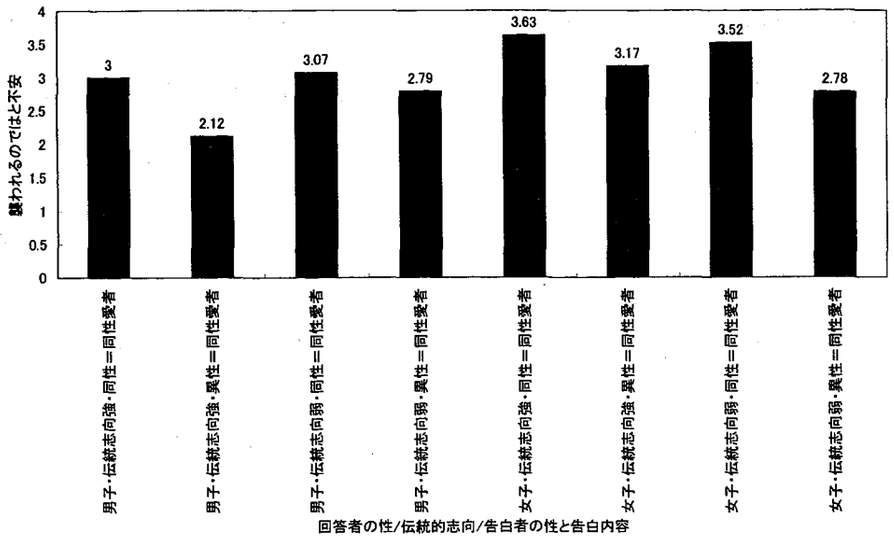



図2-5　「セクシャル・マイノリティからのカミングアウトに対する反応」:「襲われるのではと不安」

### 3　同性愛者の婚姻の法的認知

同性愛者の婚姻の法的認知に関する評定平均と標準偏差をまとめたものが表3である。

同性愛者の婚姻に関する3項目をそれぞれ従属変数にし、性×伝統志向の分散分析を行った。

**「同性愛者の婚姻も、法律で認めるべきだ」** 伝統志向の主効果（F（1,97）=4.65, p<.03）と性×伝統志向の交互作用（F(1,97)=4.15, p<.05）が有意であった。伝統志向の強い人（2.60）よりも弱い人（2.12）の方が、同性愛者の婚姻を法律で認めることに肯定的であった。交互作用について下位検定を行うと、伝統志向の強い男性（3.00）は、他のすべての条件（2.07,2.20.2.17）の人より一貫して同性愛者の婚姻を法律で認めることについて消極的である。

**「婚姻制度そのものが必要ない」** 有意な結果は得られなかった。

**「異性愛者の婚姻以外は、認めない」** 性の主効果（F（1,97）=6.74, p<.05）、伝統的志向の主効果（F（1,97）=.03, p<.05）、性×伝統的志向の交互作用（F（1,97）=6.00, p<.005）が有意であった。性の主効果は、男性（3.67）の方が女性（4.22）よりも同性愛者の婚姻には否定的である傾向が有意に強いことを示している。伝統的志向の主効果は、伝統的志向の強い人（3.74）の方が弱い人（4.16）に比べ、同性愛者の婚姻を法的に認知することに否定的見解をもっている。交互作用について下位検定を行うと、伝統志向の強い男性（3.20）は，他のすべての条件の人（4.14, 4.27, 4.17）よりも同性愛者の法律婚を認めるべきではないと考える傾向が強い。

表3　同性愛者の婚姻の法的認知に関する評定平均と標準偏差

| | 男子・伝統志向強 | 男子・伝統志向弱 | 女子・伝統志向強 | 女子・伝統志向弱 | 有意な効果 | 有意水準 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 同性愛者の婚姻も、法律で認めるべきだ | 3 | 2.07 | 2.2 | 2.17 | 伝統志向 | ＊ |
| | 1.26 | 1.07 | 0.92 | 0.83 | 性×伝統志向 | ＊ |
| 同性愛者に限らず、婚姻制度そのものが必要ない | 4.15 | 4.21 | 3.67 | 3.96 | | |
| | 1.02 | 1.25 | 1.24 | 1.07 | | |
| 異性愛者の婚姻以外は、法律でみとめるべきではない | 3.21 | 4.14 | 4.27 | 4.17 | 性，伝統志向 | ＊＊ |
| | 1.15 | 0.95 | 0.91 | 0.89 | 性×伝統志向 | ＊ |
| 人数 | 34 | 14 | 30 | 23 | | |

（注）＊＊は p<.01, ＊＊は p<.05, ＋は p<.10 を表す。上段の数字は平均、下段の数字は標準偏差である。

## 考　察

**セクシャル・マイノリティに対するイメージ**

「セクシャリティに対するイメージ」では、11特性のうち8特性で、性の要因が関わる交互作用が有意であった。各セクシャリティを表す用語に対して、女性よりも男性の方が極端なイメージを抱いていることがわかった。ホモセクシャルに対して男性は、「なよなよしている」とみる傾向が強い。また、伝統志向の強い男性は同じ伝統志向の強い女性より、相手に対して「優柔不断な」といった否定的なイメージを抱きやすいことがわかった。男性は、「ホモセクシャル」「バイセクシャル」「レズビアン」何れに対しても親しみやすいとは感じていない。女性の方がこれらのセクシャル・マイノリティに対して親しみやすいと回答している。さらに、男性は、女性異性愛者を「やさしい」とみる傾向が強いのに対して、女性は「ホモセクシャル」を「やさしい」とみる傾向が強かった。「頼りがい」についても性差が顕著であり、男性は女性以上に男性異性愛者を「頼りがいがある」とみる傾向が強かった。

全体的に、男性はセクシャル・マイノリティ、とりわけ「ホモセクシャル」や「バイセクシャル」に対して消極的ないしは否定的なイメージを抱いていることがわかった。このことから、ホモセクシャルは、「男らしくあらねばならない」という男らしさの規範からはみ出したもの、現代の社会で前提とされている「男は女を、女は男を好きになるもの」という、異性愛の規範に当てはまらないものとして男性からは強く認知されていると推測できる。そのため、「力強い」、「決断力のある」、「頼り甲斐のある」という従来の「男らしさ」の特性の対局にある、「なよなよしている」、「優柔不断な」といった否定的な特性を「ホモセクシャル」「バイセクシャル」に対して男性が強く帰属してしまうのであろう。セクシャル・マイノリティに対する否定的なイメージが、女性に比べ男性に強いことは、多くの研究が示してきた男性の性役割、「男らしさ」「女らしさ」に対するステレオタイプの強さを反映していると考えられる。現在の社会で「パンツスーツで男まさりの女性」が許容されたとしても、「スカート姿でお化粧をした女性らしい男性」は許容されにくい。芸能人などレディースの服をきている男性がいないわけではない。しかし、一般企業でパンツスーツの女性社員と同様にスカート姿の男性社員が働いていることはまずない。女性がジェンダー（従来で言うところの男らしさ、女らしさ）から自由になりつつある一方で、男性はまだまだ女性以上にジェンダーにとらわれているのである。

いくつかの特性で性×伝統志向の交互作用が見られたことについて考察しておこう。有意な交互作用は「優柔不断な」「親しみやすい」「気が弱い」の3つの特性で得られた。伝統志向の強い男性は、伝統志向の強い女性よりも、全体的に相手を「優柔不断」「気が弱い」と見、「ホモセクシャル」を親しみにくいとみる傾向がある。また、伝統志向の強い男性は、女性異性愛者を近づきやすい対象と認知している。伝統志向の強さが必ずしも一貫した結果を生みだしているとは言えないが、旧来の男子優勢・優先の人間観を強くもつ男性は、異性愛者に親しみを感じ、「男らしい」男性と「女らしい」女性を前提に男女の関係をみる傾向が強い。

次に、評定対象者の性指向の違いによる回答者のイメージの違いについて検討する。もっと

もたくましく、力強く、頼りがいがあり、繊細ではない人は、男性異性愛者である。また、一番やさしく、温かい人は女性の異性愛者である。この結果は、まさに伝統的な男性像、女性像に適合しており、回答者の多くが今まで言われてきた「男らしさ」「女らしさ」のイメージを強くもっていることを示すものである。ホモセクシャルは、バイセクシャルやレズビアンよりやさしいが、なよなよしていて、決断力がなく、繊細な人としてみられる傾向が強かった。他方、バイセクシャルは、優柔不断で、決断力がなく、繊細な人であると認知されていた。レズビアンは、決断力がある人と見られている。この結果を総合的に判断すると、セクシャル・マイノリティは、異性愛者とは明確に異なる人々であって、はっきり区別して見られていることがわかる。とくに、セクシャル・マイノリティの中でも、「ホモセクシャル」「バイセクシャル」に対するイメージは、幅が広がっている。対照的に、「レズビアン」に対するイメージは狭くなっている。これにはいくつかの原因が関係しているのであろう。例えば、「ホモセクシャル」がマスコミに登場する機会は多い。芸能界で活躍するいわゆる「ホモセクシャル」のタレントもいる。「ホモセクシャル」は一般の人々に珍しい存在ではなくなりつつあるのに対して、「レズビアン」が話題に上ることは滅多にない。「レズビアン」の存在が表に表れにくいのは、依然として性規範が男性には寛容で、女性には厳しいといった事情もあるのであろう。近代国家建設の過程で、男性には妾をもつ自由が公然と認められ、姦通罪は女性だけに適用されてきたことなど、容易に思い起こすことができる。売る性ばかりが問題にされてきた売春も、最近ようやく「買春」として男性の罪が問われるようになってきた。女性のみを拘束した典型的な性規範の例である。いずれにしても、セクシャル・マイノリティの存在が広く知られるようになりつつあるとはいえ、彼/彼女らに対する一般の見方は、否定的、拒否的な方向に相当片寄っていることに違いはない。

**カミング・アウトに対する反応**　もっとも特徴的な点は、告白内容の主効果が、多くの質問項目の評定で認められたことである。有意な効果があったのは、(カミング・アウトや愛の告白について)「理解できない」「治療すべき病気」「驚く」「気持ち悪い」「友だちとしてのつき合いをやめる」「うち明けられてより親密になる」「うち明けてくれて感謝する」「襲われるのではないかと不安になる」の各項目であった。内容をみると、同性の友人からの恋愛感情の告白は、同性・異性の友人からのカミング・アウトに比べ衝撃が大きく、否定的に受けとめられる傾向が強い。愛の告白は、驚きであり、理解できず、治療すべき病気であり、気持ちが悪く、親密になれず、うち明けてくれても感謝する気になれず、友人としてのつき合いをやめたくなり、襲われる不安を強く感じさせることになるようだ。

これらの結果は、どのように解釈できるのであろうか。「実は自分は同性愛者である」というカミング・アウトは、あくまでも他人事であり、一歩ひいた状態で第三者として受けとめることができる。しかし、「実は自分は同性愛者で、以前からあなたのことが好きだった」と告白されたとき、実際にその好意が自分に向けられたときには、事態は他人事ではなくなり、当事者としての否定的な反応が生じやすい。結果は、これらのことを示唆しているのではないか。同性の友人のカミング・アウトに対しては、「いいんちゃう」と受け流していた男性が、同性の友人からの告白に対しては「それはいや」と拒否的な態度をとった。カミング・アウトに対して「迷惑かけなければいいんでないの」といっていた男性は、告白に対して「自分は関わりたくない」と拒絶的に記述している。また、カミング・アウトに対して「誰を愛してもいい、そういう事に決まりはないから」と記述した女性も、告白に対しては「対象が自分ということになると、一般論ではなくなる。身の危険を感じちゃいます」と態度を一変させている。多くの記述が、



我々の推論を支持する内容になっている。

次に性の主効果について考察しよう。性の主効果が認められた項目は、「治療すべき病気」「気持ち悪い」「ともかく話を聞く」「友だちとしてのつき合いをやめる」「うち明けてくれて感謝する」「襲われるのではないかと不安になる」の6つであった。女性よりも男性の方が、カミング・アウトや恋愛感情の告白は、衝撃的な出来事として映るようだ。カミング・アウトや告白をする人は、病気であり、気持ちが悪いと思う傾向が強い。自分にうち明けてくれたことに感謝する気にもなれず、友だちとしてのつき合いをやめたいと感じる。襲われる不安も女性よりも男性で強い。総じて、男性より女性の方がセクシャル・マイノリティに対して受容的で、拒否的否定的ではない。このことは、男性に比べ女性はともかく話を聞き、うち明けられて嬉しく感じる傾向が強い点にも表れている。伝統的な性役割に強く拘束されている男性の姿をはっきりと示す結果といえよう。

最後に、伝統志向の強さとセクシャル・マイノリティに対する人々の態度との関係を検討しよう。回答者の伝統志向の強さが関わる項目は少なく、「襲われるのではないかと不安」「うち明けてくれ感謝」の2つである。伝統志向の強い人は弱い人に比べて、同性・異性のカミング・アウトや同性が恋愛感情をうち明けてくれたことに感謝する気持ちは弱い。さらに、伝統志向の強い男性は、同性愛者に対して襲われる不安を強くもつのに対して、伝統志向の強い女性は逆に不安を感じる傾向は弱い。ここでも、男性は女性に比べセクシャル・マイノリティを異質な存在として認知する傾向が強く、伝統志向の強さが関係していることが示唆されている。全体として、伝統的志向の弱い人（つまり旧来の性役割に拘束されない人）の方が、伝統志向の強い人（伝統的性役割観の強い人）よりもセクシャル・マイノリティに寛容であり、カミング・アウトにそれほど否定的な反応は示さなかった。先行研究と一致する結果である。Dunbar, Brown & Amoroso (1973) は、両性の平等性を支持する者ほど同性愛者をポジティブにみることを報告している。これは、先に述べたジェンダーの視点から説明できる。伝統的な男女の人間関係や性役割観に拘泥しない人は、当人が自認する性指向を重視することで、男女間の自然な愛、人間関係が生まれると考えることができ、生物学的な性を越えた他者の多様な生き方を肯定できるのではないだろうか。

今後の課題として、いくつかの問題に簡単にふれておこう。一つは、「同性の友人からのカミング・アウト」を問題にするときの「同性」の意味である。「同性」は、回答者が男性であるときは「ホモセクシャル」を指し、回答者が女性であるときは「レズビアン」を指す。前述の結果は、女性の方が「同性の友人からのカミング・アウト」に寛容だ、と理解することもできるが、「ホモセクシャル」に対するイメージが、レズビアンに対するイメージよりも否定的であることを考え合わせると、微妙な問題を含んでいることがわかる。女性では、「同性の友人からのカミング・アウト」、(すなわち「レズビアンである」ということ）よりも「異性の友人からのカミング・アウト」(すなわち「ホモセクシャルである」ということ）に対する反応の方が否定的なのだ。これは、「男性は女性同性愛者を、女性は男性同性愛者をより好む」(Millham, et al., 1976)、「男性は男性同性愛者よりも女性同性愛者を、女性は女性同性愛者よりも男性同性愛者を好んでいた」(和田,1996) という先行研究の結果と一部異なる。しかし、Millham, et al. や和田の研究と違い、本研究では他者一般ではなく友人からのカミング・アウトとして場面を設定したので、女性が異性の友人よりも同性の友人とより深い情緒的なつながりをもっていた、と考えれば説明がつく。また、男性は、異性愛者でも、男性異性愛者よりも女性異性愛者に対して「親しみやすい」と回答していた。男性より女性は同性の友人との関係を日常的に「親しみやすい」と感じていることが、女性同性愛者

のカミング・アウトに対する女性の受容的な態度を生んでいるのかもしれない。。

第二に、「友人」という用語についてである。回答者が想定した「友人」との親しさの程度は、質問紙の回答だけから推し量ることはできない。とくに、異性の友人からのカミング・アウトに対しては、その友人に自分が恋愛感情を抱いていたか否かによって、カミング・アウトされたときの反応はまったく別のものになるだろう。友人関係の親密さの度合いが、同性、異性の友人からのカミング・アウトとどのように関連するかを明らかにすることは、今後の課題である。

第三に、「セクシャリティ」のもつ意味についてである。ホモセクシャル、バイセクシャル、レズビアンの各用語の意味を自由記述してもらった。用語の理解の仕方には、個人差が見られた。記述内容は、「男性なのに男性を好きになる」、「両刀使い」などの否定的な書き方と、「男性で、男性を好きになる人」といった中性的な書き方、「性別にかかわりなく人を好きになれる人」というような肯定的な書き方の三種類に分けられた。この用語の理解内容の自由記述と、同性愛に対するイメージ、カミング・アウトされたときの反応の間にも相関関係がみられるかもしれない。

第四に、回答者とセクシャル・マイノリティとの関わりの程度の問題である。回答者の身近にセクシャル・マイノリティーがいるか否かによって、同性愛などの用語に対するイメージや、カミング・アウトや告白に直面したときの反応が異なることは、十分予想される。実際、直接的な接触がある人、すなわち友人や家族に同性愛者がいる人は、そうでない人よりも同性愛をネガティブに見ないことを Millham ら (1976) が報告している。本研究では周囲にセクシャル・マイノリティがいるという回答者がほとんどいなかったため、統計的な分析を行うことはできなかった。

**セクシャル・マイノリティの婚姻**　同性愛者の婚姻の法律上の認知に対しては、男性は女性よりも消極的であるし、伝統志向の強い人は弱い人に比べ否定的である。とくに、伝統志向の強い男性は拒否的傾向を強く示していた。女性よりも男性の方が「異性愛者の婚姻以外は、法律で認めるべきではない」など、保守的な反応を示すことがわかった。これは、すでに考察してきた内容と一致する結果である。保守的な人は、異性愛を前提として成り立っている婚姻関係を当然のものとしてみており、「男らしさ」「女らしさ」に強くとらわれている。男同士／女同士の恋愛関係は、アプリオリにある性役割の前提からはみ出すものでしかなく、理解を超えたものとして受けとめられる。その結果、男性に「気持ち悪い」「治すべき病気だと思う」などの反応が強く表れたと考えられる。

**まとめ**　全体的に見て、女性よりも男性の方がジェンダー（従来の「男らしさ」、「女らしさ」）にとらわれており、同性愛者に対するイメージとカミング・アウトに対する反応は否定的であった。婚姻制度についても、セクシャル・マイノリティの結婚を法的に認知することには厳しい態度をとっていた。男性は女性に比して、さらに伝統指向の強い人は弱い人に比べ、セクシャル・マイノリティに対して保守的な考えをもつていることが明らかになった。対象のセクシャリティの違いもはっきりしており、バイセクシャルよりホモセクシャル、バイセクシャルに対する否定的態度が強く、多様な特性が帰属される傾向が強かった。

### 注

1) 性的指向…「セクシャリティ」と同義で使われる場合も多い。性的欲望の向く対象が何かということであり、たとえば、狭義にはそれが同性か異性かということ。同性であれば同性愛者、異性であれば異性愛者、両性であれば両性愛者である。
2) カミング・アウト／カムアウト…自分がレズビアン、ゲイであることを公表すること。自分自身で認めることも含む。現在はセクシャル・マイノリティ全般でも使われる。“coming out of the closet” から。
3) ヘテロセクシャル…性的指向が異性に向かう状態（またはその状態にある人）。ヘテロ、ノンケ（そのケがない、の意）、ストレート (straight)、ノーマル、ふつう、ともいう。後の3つは、「異性愛は正常、他は異常」とする社会意識を補強するとして嫌うセクシャル・マイノリティもいる。
4) 性同一性障害…一人の人間においてその性別と性自認とが異なり、同一性を得られないことに苦痛を感じる障害。'96年には埼玉医科大学、'97年には日本精神神経学会が、この障害の治療手段として性転換手術が必要、という答申を発表し、埼玉医科大学において日本で初めての手術が行われた。
5) 性別…生まれつきの「女」と「男」。この性別と性自認が一致しない状態（またはその状態にある人）をトランスセクシャルという。性別は出産後、外性器の外見によって判断され、染色体や卵巣・精巣などの内性器による確認は行われないため、誤った判断が下される場合も少なくない。
6) 性自認…sexual identity の訳語で、「自分は女である／男である」という意識のこと。

### 引用文献


Asher, S.R. & Allen, V.L. 1969 Racial preference and social comparison process. *Journal of Social Issues*, 2, pp.157-166.

坂西友秀　1999a「ジェンダーと『家』文化」社会評論社

坂西友秀　1999b「恋人たちがもつ現代的『家』意識」『ジェンダーの心理学』(土肥逸子・藤田達雄編) ナカニシヤ出版　第2章 pp.19-40

坂西友秀　2000「長男と非長男の結婚に対する意識と行動の違い」『30代男性の結婚意識と生活に関する調査報告と提言－首都圏における30代男性の「未婚事情」－』日本青年館結婚相談所 pp.47-53

坂西友秀　2000「長男長女と次男次女の結婚に対する意識と行動の違い」『30代女性の結婚意識と生活に関する調査報告と提言－首都圏における30代男女の「未婚事情の比較」－』(2000年 文部科学省委嘱調査研究事業) 財団法人　日本青年館結婚相談所　pp.59-68

Brown, M & Amoroso, D.M. 1975, Attitudes toward Homosexuality among West Inian male and female college students. *Journal of Social Psychology*, 10, pp.457-467

Brown, R. 1995 Prejudice: Its Social Psychology. Oxford: Blackwell

Davidio, J.F. & Fazio, R.H. 1992 New technologies for the direct and indirect assesment of attitude. In J.M. Tanur(ed.), Questions about Questions: Inquiries into the cognitive bases of survey. New York: Russel Sage (Cited by Brown, R. 1995)

Dunbar, J. Brown, M. & Amoroson, D.M. 1973 Some correlates of attitudes toward homosexuality. *Jouranal of Social Psychol*ogy, 89, pp.271-279.

Hraba, J. & Grant, G. 1970 Black is beautiful: a re-examination of racial preference and identification. *Journal of Persnality and Social Psychology*, 16, pp.398-402.

McConahay, J.B. 1986 Modern racism, ambivalence, and the modern racism scale. In J.F. Dovidio and S.L. Gaertner (eds), Prejudice, Discrimination, and Racism, New York: Academic Press. (Cited by Brown, R. 1995)

Millham, J., San Miguel, C.L., Kellogg, R., 1976, A factor-analytic conceptualization of attitudes toward male and female homosexuals. *Journal of Homosexuality*, 2, pp.3-10

Morin,S.F. & Garfinkel, E.M. 1978 Male homophoia. *Journal of Social Issues*, 34 (1), pp.29-47.

猿谷　要　1968 アメリカ黒人解放史　サイマル出版会

Vanman, E.J, Paul, B.Y., Ito, T.A. & Miller, N. 1997 The modern face of prejudice and structual features that moderate the effect of cooperation on affect. *Journal*

*of Personality and Social Psychology*, 73, pp.941-959.

和田　実　1993　同性友人関係：その性および性役割タイプによる差異社会心理学研究　第8巻 第2号 pp.67-75

和田　実　1996 青年の同性愛に対する態度：性および性役割同一性による差異　社会心理学研究 第12巻 第1号 pp.9-11

Whitley, B. E., Jr., &Kite, M.E., 1995, Sex differences in attitudes toward homosexuality : A coment on Oliver and Hyde(1993). *Psychological Bulletin*, 117, pp.146-154

**謝　辞**

本研究を推進するにあたり、回答者としてセクシャル・マイノリティーの方、大学生・大学院生の多くの方にご協力いただきました。また、お忙しい中ご指導下さった豊島区立第十中学校（調査時）の松永先生、快く情報を提供してくださった中央大学大学院の谷口さんにも大変お世話になりました。ここに改めて、感謝致します。

（2002年 9月30日提出）
（2002年10月25日受理）

## The Attitudes and Reactions of the Sexual Majority toward Sexual Minorities

Natsu Kirihara　Tomohide Banzai

Sixty-eight female and 57 male undergraduate students were asked to fill in a questionnaire about their attitudes and responses toward sexual minorities (homosexual men, lesbians, and bisexuals). In Japan, many people have gender stereotypes. Gender stereotypes make students expect that both men and women will behave in line with their sexual roles. The attitudes and responses of the participants in this study toward the behavior of the minorities tend to be negative because of the large discrepancy between the expected behaviors patterns for sexual minorities and the actual patterns. We predicted that male and female students would attribute more negative traits such as indecisive, strange, and slender to the sexual minorities, and have negative reactions to them when they come out. The results were as follows:

In general, male students have stronger tendencies to stress gender than female students, and were more negative to sexual minorities coming out. Participants tended not to recognize legal marriages between sexual minorities. The students with strong traditional orientations for male-centered human relations had more conservative attitudes toward the minorities than the students with weak traditional orientations. The results were discussed from the viewpoint of gender stereotypes and prejudice against minorities.

**Key words** : sexual minority, homosexual, bisexual, lesbian, gender stereotype.

*J.Saitama Univ., Fac.Educ. (Educ.Sci. I)*, **52**(1) : 55-80 (2003)